

仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

みんなよい子



虐待事件

親が子どもを殺してしまう事件が後を絶ちません。痛ましいです。

目黒虐待死事件では、結愛ちゃんが父親から暴行を受けて「ゆるして」という言葉を残してなくなりました。

ある母親は、子どもを置き去りにして、遠くの男のところへ八日間も遊びに行つてしまい、子どもは衰弱死してしまいました。車の中に置いておかれて、熱中症で死んでしまった子もいます。

どうしてこんなことが起きてしまうのでしょうか。

どうして親がこんなことをしてしまうのでしょうか。

ひどく虐待された子は、脳が傷ついてしまうといわれます。心が傷つきます。かんしゃくをおこしやすい子になるかもしれません。暴言を吐き暴力をふるう子になるかもしれません。さまざまな発達障害が表れるかもしれません。大人を怖がる子どもの表情は硬いです。虐待経験は子どもにとって一生の傷になるでしょう。かわいそうです。

みんなよい子

虐待を受けた子は自分が悪いと自分を責めるのだそうです。親に問題があっても、自分が悪いと責め、「おとうさんおかあさんのきにいるようにするので ゆるしてください」と

謝るのは痛ましいです。

かんしゃくを起しても 子どもは甘えてくる

暴言を吐いても 子どもは甘えてくる

安心安全なことがわかれば 自然と甘えが
ます

甘えることによつて じわじわと心がおだ
やかになる

心がおだやかになれば ことばが入る

ことばが入れば 対話ができるようになる

表情がおだやかになる

行動がおだやかになる

笑顔をみせる

すすんで学ぶようになる

みんなみんなよい子

虐待を受けて育つた子は、甘えることを知

りません。甘え方も分かりません。自分がそ
こにいたことが安心安全であることがわかれ
ば、少しずつ近寄つてきます。少しずつ、少
ずつです。安心安全を確かめるように。

甘えられることがわかれば、体を寄せてき
ます。抱っこをねだつてきます。おんぶをね
だつてきます。スキンシップができるようにな
ります。

たくさんたくさん甘えさせてあげよう

たくさんたくさんすきんしつぷをしてあげ

よう

たくさんたくさん抱っこしてあげよう

表情がおだやかになったら、たくさんたく

さんほめてあげよう

お手伝い上手な子どもたち

あいさつ上手な子どもたち

大きな声でお歌上手な子どもたち
みんなみんなほめてあげよう

子どもたちは心が満たされれば、心がしつかりしてきます。いろいろなことに自然と自分から挑戦するようになります。勉強するようになります。

お母さん大好き お父さん大好き

人には誰しも「親を思う心」があります。お釈迦さまはその心を「孝順心」といわれ、「孝順心」こそが「仏心」であると論されました。実はどんな子ども、みんな親を思う心を持っているのです。

子どもがかんしゃくを起したり、いうことをきかなかつたりするのは、本当は、もつと親に甘えたくて、かわいがってもらいたくて、声をかけてもらいたいという表現なのです。本当は、お母さんもお父さんも大好きなのです。

この世に親を思わない子はおりません。「どの子どももみんな仏さまの子」として尊く愛すれば、子どもはみんな親を思う心を持っているのです。その本来の仏心である「孝順心」を大切に育てましょう。

かんしゃくを起しても おかあさんだいすき
いうことをきかなくても おとうさんだいすき
子どもを抱きしめてあげよう
たくさんたくさん抱きしめてあげよう
みんなみんなよい子